

INFORMATION

日 二〇二二年一月一日
 時 十時三〇分より
 場所 徳泉寺本堂
 内容 勤行 法話

新年最初の法要を、元旦の朝
 勤修いたします。新しい年の始ま
 りをご門徒の皆様と共に迎え
 できればと思います。ご無理の
 ないところでご参加ください

今月のことば

人は弱音が
 吐けるから
 未来が
 開かれるんだよ
 富田 富士也

教育心理カウンセラーの富田富士也さんの言葉です。弱い自分を出すことができた時、そこから始められる道が見えてくるかもしれません。

境内の花々



ノコンギク



住職法話「煩惱具足の我ら」

私たちは「褒めてほしい」と思う「名聞」や「隣の人より勝っていたい」と思う「勝他」などの心、煩惱を持っています。そんな煩惱からはなれるのではなく、煩惱を抱えた自分のまま仏の道を生きようとされたのが親鸞聖人です。上下を作り比較をしていく世界の中で、比べる必要のない尊いひとつの命をいただいている身でありながらその比べていく心はどこにあるのか。その心は他の誰でもない自分の身の内にあります。碍(さわ)りはこちら側にあるのです。私たちが助かっていくというのは苦しみ、悲しみから立ち去ることではなく妨げがあると自覚して頭が下がるということ。そうすると目の前の人と本当に出会う道が開けてくると親鸞聖人は説いておられます。

前住職法話「人生は苦なり」(抜粋)

「仏は人間の苦を救うのではない。苦悩の人間を救うのである」という言葉があります。仏は「苦」を取ってくれるのではありません。苦しみ、悩む人を救うのが仏教なのです。では「苦」はどこから来るのでしょうか。もし、苦しみが私の外からやってくるのであれば解決の道を外へ求めていくことになります。しかし、それでは解決へとは向かいませぬ。そうではなくて私の中に目を向けると実は私の内に「苦」があったと気づきます。人生は苦です。私たちはありのままを受け容れられずじたばたしますが、苦を苦としてそのまま受け入れ引き受けて、ありのままに生きていく力を与えてくださるのがお念仏の道です。

十二月 同朋会

十二月十一日(第二土曜日)

時間 午後一時から三時

場所 徳泉寺 同朋会館

内容 勤行 法話

持ち物 念珠 勤行本

どなたでもご参加できます

『徳泉寺報』後記

12月5日に書道家の小野雄慈さんの書道パフォーマンスがあります。今年の漢字は何でしょうか。私(坊守)は1月に今年の目標として「軽」やかに過ごしたいと願いましたがなかなか心配事の多い一年だったように感じます。これもまた貴重な経験でした。